



丸小だより

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く ～

横浜市立丸山台小学校 学校だより
7月号
令和5年6月30日(金)

あんばん
いい塩梅

校長 倉本 恵

みなさんは、「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」という横浜市の取組をご存じでしょうか。平成8年から行われている取組で、保護者の皆様の中にもご経験がある方がいらっしゃるかもしれません。（開催当初から見ると取り上げられる題材は時代の流れを受け変わってきている面もあります。）本校では6年生全員が各自でテーマを設定し、スピーチ原稿を作成する学習を毎年行っています。今年度は、SDGs17の視点に関連付け、共通テーマ「国際平和のために自分がやりたいこと」を書くことがスピーチ原稿の約束でした。クラス代表に選ばれた4人は、5、6年生全員の前でスピーチを披露しました。スピーチ発表の後、聞き手からは自分は調べたことをまとめただけだったけれど、代表の人たちは体験したことが入っていて、そこが違いだ、すごいと思った、という感想が出されました。（学校代表となった牧野さんは、江の島でのごみ拾いリサイクル活動に参加したことを題材に、スピーチを組み立てていました。）

体験することの大切さを改めて感じた6年生と、6月23日、24日に修学旅行（写真は中面に掲載）へ行ってきました。（駐車場には観光バスがひしめき、戦場ヶ原のハイキングは複数の学校が列をなし、東照宮も人の波が絶えず、日常が戻ってきたこと体感しました。コロナ禍で、すいている日光に慣れてしまっていた自分に激を飛ばす2日間でした。）

6年生は修学旅行に向けて、他教科との関連も図りながら一人1台端末（タブレット）を活用し、日光について調べガイドブックを作る学習を進め、6月10日の土曜参観でその内容を保護者に伝えました。

一人1台端末の普及で調べることは容易にできるようになり、体裁を整えてまとめる力も確実に子どもたちについています。でも、私にはある懸念がありました。実際の物を目にしたときに、「なんだあ～、これはネット調べて知っているよ。」とあっさりとした反応だったら・・・。

そして当日。華厳の滝の落差や水量に目を見張る姿。いろは坂に立てられている看板を探したり、カーブの数を数えたりする姿。野生の猿を見つけてはしゃぐ姿。益子焼の絵付け液の色の変化の不思議さに感嘆の声を上げる姿。鳴竜の下で打つ拍子木の響く音に深く感心する姿、等々。実際に見たり聞いたりすることで、調べた知識を本当に自分のものとする姿を随所で見ることができ、私の懸念は吹き飛びました。

「調べること」と「体験すること」のいい塩梅が、子どもたちの成長には必要だと、改めて確信した6月でした。

7月以降も全学年でいい塩梅の学習づくりに取り組み、本校の特色である学校四期制の第二期（確かめながら続ける）に歩みを進めていきます。

丸山台中学校ブロックの活動

丸山台中学校ブロックでは学校運営協議会を昨年度10月1日に立ち上げ、今年度1回目の学校運営協議会が6月9日に丸山台中学校で行われました。（学校運営協議会の趣旨および今年度の委員等につきましては、本校ホームページをご覧ください）

ブロック4校の校長は昨年度に引き続き毎月会合を開き、情報交換を行っています。また、今年度は職員の担当間でも今まで以上に連携を図り、小学校3校に中学生が来校しての朝のあいさつ運動（6月7日・9日）の実施や、丸山台中学校ブロック「こども会議」（7月20日実施予定）に向けての準備を行っています。



。新たな技術である生成 AI をどのように使いこなすのかという視点や、自分の考え形成するのに活かすといった視点も重要